

山本 知美

「光悦寺参道」



この場所を訪れた人々が踏みしめた思いを、しっかりと受け止めてきた参道。たくさん祈りが凝縮された空間を真心を込めて描いている。深い精神性を感じる作品と語らい、心を鎮めたい。

和田 太希子

暑中葉書とどく癖字の名無しより
白梅や早世官司の忌の近し
節分やぐい呑みで干す鬼ころし
鴨の餌を先取る鳩や園うらら
左紀日和敷の媛陵小鳥来る
音さやに厨をめぐる嫁が君

氏にとって俳句は自身の一部であり、生活の一部となつてきているのだろう。自然と言葉が生まれ、十七音のリズムを刻んでいるのを感じる。我が子のように句を大事にする氏の愛情が溢れ出す。

安倍 幸子

胸裡に秘めし傷みを知ることく
春の薔薇には春の刺あり
ゆふすげはひと夜のいのち宵迫る
花の涙を掬ふごとくに
道のべの萩の一むら風吹けば
散りし花にも優しさおもほゆ
多武峰の楓燃へ立つ古社の庭
常世の風が吹き渡るなり

大和まほろばの時代から脈々と受け継がれた、日本人ならではの美意識や感性を感じる。歌に息づく美しい日本の心を次の世代へ伝えていきたい、という気持ちが強まる。☆昭和十五年生

末武 みどり

春雷や背のびして取る葉箱
水中花はみ出ぬ意地を通しけり
笹百合の香にまとはれて身じろげず
もの売りの声戻り来し蟬時雨
吹き溜めて枯葉がさわぐ轍あと
つぶやきを行間に秘め賀状書く

物事をしっかりと観察し、耳を澄ませて五感で敏感に感じ取ったことを等身大の言葉で俳句にしている。普通なら逃してしまう日常の煌めきを自身の感性で生き生きと捉えている。

感想をお寄せください。

図書カード3000円分を10名様にプレゼント

はがきに〒住所、氏名、電話番号、年齢、職業、掲載日、今回紙面上でご紹介した中から、心に残った作家名と作品への感想を書き、弊社宛にお送りください。FAX・E-MAILも可。締め切りは11月30日(月)必着。プレゼント当選は発送をもってかえさせていただきます。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1の5の8 オフィス虎ノ門1ビル
(株) 広報堂「紙上ギャラリー」係
TEL:03(3502)8411 FAX:03(3503)3886
E-MAIL:kohodo@srdion.ne.jp
<http://www.k2.dion.ne.jp/~kohodo/>

一部作品を鑑賞できます。

※お寄せ頂いた感想文は「読者の声」として作家に送らせていただきます。
<企画・制作(株)広報堂>

林 郁子

不登校燕巢作り終へるとも
灼くる地に届き余れり千羽鶴
万葉の歌碑に真向ひ月を待つ
唯一人泣かずじまひの泣相撲
橋の実をつけし庭巫女が舞ふ
赤とんぼ乱れて翔べり真珠湾

一句一句の情景が臨場感を持って伝わる作品は氏と語らうように味わえる充実の俳句。流れる季節の中での様々な体験に心象を織り込む氏の表現力は瑞々しく、豊かで、冴えがある。